

松尾光のキューバ右往左往 ③

7月、日本語講座1年終わる

講座開講1年が終わる。プロジェクトは期待どおりの進展と、相変わらずの課題が交錯している。1月から順に出来事や感じたことをお伝えしたい。

1月

日本語講座の教室が使えない事態になっていた。事前に私に伝えてほしかった。

ハバナへ — 出会いが4、5月の活動へ

【賀詞交歓会】



渡邊大使（右）と日系人会の幹部の方とで鏡開き

在キューバ日本国大使館の賀詞交歓会に招待をうける。日系人、日本食堂の主人、商社、JICAなどの40人ぐらい。渡邊優日本大使ともじっくり話して、サンクティ・スピリトゥスの活動を理解していただいた。昨年に安倍首相がキューバへ来られた際、日系人（1100人おられる）代表の方にお会いになり、キューバで日本との懸け橋になってほしいと頼まれたことで盛り上がっていた。

JICAの援助調整専門家の小林様といろいろお話しをした。これから何回もお会いすることになる。企業の進出の様子を把握するよい機会だった。また豊田通商の小林様とも会い、後に親交を深める。

2月

心温まる話 — でも5月に思わぬ破局が

心温まる話を聞いた。私がキューバへ行くきっかけを作っていたいただいた円卓会議にも何人かおられる。1970年代に3回実施した、日本からキューバへのキビ刈り部隊の後日談。

キビ刈り後のキューバ残留組の中に、キューバに剣道を伝えたいと思った安藤昭治さんという方がおられる。安藤昭治さん



ギジェルモさん、奥さん、日本武道愛好家たち

は44年前、1年半農場で働きながら剣道をサンタクララで指導なさった。その一番弟子の方が亡くなる前に「キューバに剣道を教えた最初の方は安藤先生であることを証明するように、本を出版してほしい」と言い残した。なんとずっと剣道、合気道の指導を続けておられる孫弟子にあたる方が（ギジェルモさん）が、今も本を執筆中で、サンタクララにおられた。

2月26日サンタクララへ行き46年の思いを存分に聞く。キューバ人を見直す1日だった。これを契機に日本語講座サンタクララ講座が始まる。ところが、日本語講座サンタクララ講座は5月に破綻する。

サンクティ・スピリトゥスに日本人旅行者

日本人旅行者が初めて私の授業を見学。親交を深める。かなり旅行通の女性。南米やインドをバックパッカーで旅したそう。よく聞くとキューバで



大学での講座、日本人旅行者と

ビジネスの種がないかと見に来たとかで、並みの旅行者とは一味違った。案内のノウハウを取得したので皆様、是非サンクティ・スピリトゥス訪問の検討を願う。

3月

大学に日本語講座専用教室ができた。使わないときは他の講義に使うが優先して使える。大学での日本語講座の認識が少しずつ高まる。

日本語講座の進捗

いよいよ動詞の活用や、形容詞副詞の使いかたへ。専用教室ができ落ち着いて進められる。一方のグアイアベラの教室は環境が悪い。雑音が多く集中できないので、5月に民宿に場をかえる。学習者については、やはりと言うべきか講座の出席率が悪く悩まされる。キューバの大学は単位

制でない。学科で期末試験があり、それによって進級を判断する。学科に関係ない科目は卒業に無関係。

日本語学科はハバナ大学にもなく、学位とは無関係だ。優先順位が低いので、難しいまたはつまらないと簡単にやめる。30人いた学習者が17人になる。でもこれはハバナ大学でも同じと聞き、気を持ち直す。

旅行者が増えた弊害がじわりと

またハバナへ行く。いくたびに旅行者がふえている。残念だが旅行者の金を目当てにぼったり、だましたり、お金をとったりするキューバ人が増えている。よきキューバが少しずつ失われていく。

実は私も、いままでだまされていたことに気づく。都会ハバナでは特に細心の注意が必要。残念だ。タクシー、食事、観光で正規の料金がなくて観光客はいいなりになると、何倍も払わされる。私は値切る交渉がいやなのだが、絶対に必要だ。キューバ人は現金を得る手段がないのだ。へたすると10倍くらい違う可能性がある。ストレスだ。

無知な旅行者を狙う行為はやめてくれないかと願うばかりだ。でも、ますます増えているようだ。そして田舎のサンクティ・スピリトゥスでも、ついにぼるタクシーにあった。のどかでのんびりとしてまじめなキューバ人の印象をこわすようで残念だ。

5月

日本文化週間 渡邊大使、サンクティ・スピリトゥスに来る



私が教える日本語講座の教室に大使がこられた

日本文化週間が5月25日から28日までの日程で行われた。在キューバ日本国渡邊優大使が来られた。お会いするのは3回目だ。渡邊大使は、キューバのすべての県を回る予定で日本とキューバの友好を図っている。



学長と学部長（ともに女性で若い）

大使と同行して大学学長と学部長から説明やもてなしを受けた。大学学長と学部長

は、私の日本語講座講師の活動を評価して大使へ報告していただいた。大使も、日本大使館と日本語を教える私は一体だと大学の学長や学部長に言ってくださった。

大使は、グアイアベラの家に来られて挨拶した時も私を紹介してくださった。全権大使となると存在感が違う。キューバの方が皆、敬意をもって接したし、私の活動の大きな支援となったと思う。大使が来られた効果。これからの活動のため、私に講師室の利用と専用の机と椅子が用意された。ここまで1年かかった。

悲しい出来事 離婚が引き金

前に書いたようにサンタクララの日本語講座が突然中止となった。4時間かけて買ったバスの券（1枚75円）が無駄になる。原因はギジェルモさんの離婚。教室として使っていたご自宅が使えなくなったためだ。とても仲がよさそうにみえたのに残念だ。

離婚の話はこれで5人目。ほんとうに多い。キューバでは3回目の結婚でほんとうの愛にふれると知っている。6月4日に荷物を取りに行った際に、ギジェルモさんに最後に会った。幸いに日本への思いは変わらないうだ。

6月

またハバナへ

ハバナ大学の先生、JICA、豊田通商のかたとお話しをした。ハバナ大学の日本語の先生に、日本語教育についてアドバイスをうける。JICAの小澤所長、小林専門官、豊田通商ハバナ駐在社長とキューバでの仕事の話をお聞きする。

いくつかエピソード

1. キューバへ車を売るときは800%の関税がかかる。10月に豊田通商は事務所開きする。
2. ハバナ大学に山田芳子さんという若い日本語教師がおられる。エイムネクストという企業が社会貢献事業で派遣している。
3. 商社日立ハイテクが受注した発電所のリニューアルはキューバの都合で止まっていて、日立製作所は30人の技術者待機で損害を出している。

7月

1年の終わり7月最後の試験を行う

いままで続いた学習者は結局17人。70点以上合格とした。現段階で70点以上11人。69点以下5人だ。残る1人の学習者（大学教授）は、試験日に医者の娘さんが国際ミッションで海外に行く見送りのために欠席し、私の帰国前々日に受験する。落第点は追試を行い救済する。



サンクティ・スピリトゥス大学にて、1年最終試験

エピソード：突然試験の点が30点以上も上がった学習者が3人いた。実は優秀学習者が、私の講義がわからなかった学習者にスペイン語で教えていた成果だった。私の日本語だけの講義は優秀者しか理解できていないことがわかり、スペイン語を話せない限界を感じる。でもこの輪を広げればみんな90点が取れる期待もある。そして講座継続の芽が見える。

9月の新学期にむけて

熱心で優秀な学習者が2名おりアシスタントが期待できそう。そして新入生も20名ほどあつまって、少し形ができてきた。講師は私1人なので倍の講座を消化しなければならない。体力勝負だ。実は国際交流基金のアドバイスで教科書を変えた。またあたらしい資料を作らなければならない。でも当初の懸念3年目以降も継続できる形を作ることは解決していない。

番外編

異次元の世界キューバ

トランプ大統領の流れに逆行する演説があった。その時感じたこと。アメリカ国交回復で変わったのか。1年暮らした印象で答えはNOだと思う。アメリカの国交断絶や経済封鎖が改善されれば、たしかに影響は大きいですが、キューバ内の体制制度の問題なので一般市民の生活は変わらない。学習者を見て、キューバ人のほとんどがキューバを出たいと思っているのを肌で感じている。

革命から58年、国内の変化が求められていると思う。共産党一党独裁が続く限り変わりそうもないが、将来へ向けて、批判ではなく、変えるべきと感じた点を3つあげたい。

- ① 政府業務を効率的に、国民が望む変革を認める仕組みを。
- ② キューバ人の海外渡航を自由に。
- ③ 働いたら相応の現金を得られる仕組みを。9割以上は年収7,8万以下の人達

キューバ人は「これがキューバだ。しかたがない」と諦めきっている。



サンクティ・スピリトゥスに住んでいる元巨人軍セベタ氏がイベントに参加。渡邊大使、島田書記官とともに



グアイアベラの家の学習者達。私の誕生日を祝う

まつお あきら

日本経済新聞社でIT技術者として30年近く勤務。2016年3月に退社後、仕事とは無縁なキューバ行きを決めた。その経緯は、今から25年前に父親の松尾威哉さんがバナ大学に日本語講座を開設したことにさかのぼる。詳細は本紙21号(2016・4・4発行)

11ページのBOOK『キューバの光と影 — ボランティア日本語教師3年の記録』参照。



キューバ友好円卓会議への入会・カンパ随時受付中♪

キューバ友好円卓会議は、「キューバとの友好推進」、「キューバに関する情報交換と情報発信」を目的に2003年に設立され、年1〜2回、フォーラム、シンポジウム、講演会などを開催。そのほかハリケーン災害の支援活動、キューバツアーなども行っています。事務局スタッフは全員ボランティアです。

会報『サルー!』の読者約600名

■年会費：3000円

どなたでも入会できます

お問い合わせはFAXかe-mailで下記へ

キューバ友好円卓会議 FAX 03-3415-9292

e-mail cuba.entaku.0803@gmail.com

郵便振替 00100-9-499950 キューバ友好円卓会議